

令和 2 年 4 月 22 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K00447

研究課題名（和文）社会的公正を基軸とした公共図書館論の再構築

研究課題名（英文）Reconstruction of Public Library Theory Based on Social Justice

研究代表者

吉田 右子（Yoshida, Yuko）

筑波大学・図書館情報メディア系・教授

研究者番号：30292569

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：世界規模で公共図書館の無料、公開、公費支弁の原則が揺らぐ中で、教育の公共性を担保しインフォーマルな教育機会を平等化するために、公共図書館の理念の再構築が緊急の課題となっている。本研究では新自由主義の進行による図書館の公共的価値の後退を問題化し、これを解消するための基礎理論構築のために公共図書館の再モデル化を試みた。公共図書館を文化行政の民営化への対抗機関としてとらえ、情報と文化のアクセスに関わる社会的公正をキー概念として公共図書館のあり方を歴史文化的に再検討し、その変遷と実態を実証的に解明するとともに、社会的・文化的変化に耐えうる強靱な公共図書館の理念的基盤の再構築を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は（1）20世紀のアメリカ公共図書館モデルの確立と変化にかかわる歴史的変遷を実証的に分析することで、その存立理念と運営原理の基層を解明し、（2）北欧の公共図書館を文化の民営化への対抗機関としてとらえその状況を理論的・実証的に分析することで、図書館が機能として備える情報と文化のアクセスに関わる社会的公正の作動を解明する。（1）（2）を通じて、新自由主義/市場原理主義の導入によって弱体化する文化アクセス保障という基本的人権に関わる実践理念を回復するための学術的な基盤を提供するものであり、図書館界および文化政策の領域での学術的進展への貢献という点で意義がある。

研究成果の概要（英文）：The fundamental principles of free, public and public funding in public libraries are facing major global changes. Consequently, the philosophy of public libraries needs to be restructured in order to ensure the public nature of education and equalize informal educational opportunities. We examined the decline of the public value of libraries due to the neoliberalism, and a remodeling of the philosophical foundation of public libraries was attempted to solve this problem. We regarded public libraries as a countermeasure against the privatization of cultural administration that is progressing worldwide, and reexamined the state of public libraries historically and culturally based on social justice related to access to information and culture. In addition to empirically elucidating the actual situation of public libraries in transition, we rebuilt the ideal foundation of a robust public library that can withstand social and cultural changes in the 21st century.

研究分野：図書館情報学

キーワード：社会的公正 公共図書館論 公共図書館史 アメリカ公共図書館 北欧公共図書館

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 19世紀後半にアメリカの公共図書館を範とする近代公共図書館制度が世界各国で成立し、20世紀半ばまでに地方自治体レベルに設置された公立図書館が住民にサービスを提供する図書館ネットワークの基本的な形ができあがった。つまり公共図書館は公立図書館と同義のものとなった。しかしながらこの制度は20世紀後半から揺らぎはじめている。

(2) 1970年代以後、財政危機により公的資金の確保が困難になり、公的施設への民間財源の投入が様々な形で行なわれるようになると新自由主義/市場原理主義に基づく経営モデルに公共図書館が取り込まれることで、公共図書館の無料、公開、公費支弁原則は不安定なものとなった。民営化の進展は公共図書館の運営原理自体に影響を与えている。公共図書館 = 公立図書館というモデルが部分的に解体されつつある。

2. 研究の目的

(1) 本研究では新自由主義と市場原理主義による公共図書館の基本原則の弱体化を克服する基礎理論構築のために、公共図書館の再モデル化を段階的に試みる。第一段階は、アメリカにおける無料、公開、公費支弁を原則とするアメリカ公共図書館モデルの確立過程を社会的・文化的・歴史的 analysis によって解明する。

(2) 第二段階は、第一段階で確立したアメリカ公共図書館モデルの変容を1990年代以降の新自由主義/市場原理主義の図書館経営モデルへの適用という観点から解明する。

(3) 第三段階は、全世界的に市場原理主義が進行するなかで、例外的にアメリカ公共図書館モデルが維持されている北欧の公共図書館に着目し、この地域の図書館が公共図書館の原則を保持してきた要因を、社会的公正理念の文化制度への組み込みという側面から解明する。

(4) 第四段階は、北欧諸国のなかでも文化政策過程への公的介入強度が高いフィンランドに焦点を当てて、公共図書館の利用者調査を通して公的文化制度の浸透を実証的に解明する。

(5) 最終的に第一段階から第四段階の研究を統合し、公共図書館が新自由主義/市場原理主義への対抗機関となる社会的に公正な文化施設として機能するためには、無料、公開、公費支弁の三原則を備える20世紀アメリカ公立図書館モデルが必要であることを示すと同時に、こうしたモデルの成立条件を示唆する。

3. 研究の方法

(1) 本研究の全フェイズにおいて、公共図書館の存立と実践に対し批判的視座を確保しつつ、それらを所与のものとして捉えることを問題化する批判的図書館研究枠組みを基本的な方法論として用いる。さらに公共文化政策とその浸透過程におけるアクターの活動をホーリスティックに捉える。

(2) 本研究では公共領域で生じるアクター間の多様な関係—対立、干渉、葛藤、調整、協調、調整—を批判的に解釈するためのフレームワークとして、公共人類学の分析枠組みを投入し、公共図書館という公的領域におけるアクターをめぐる活動の厚い記述を試みる。

4. 研究成果

(1) フェイズ1 アメリカ公共図書館モデルの確立史: アメリカ公共図書館モデルの史的变化遷を歴史資料に基づき、公共図書館の原初モデルから公立図書館モデルの確立までを精査した。アメリカ図書館協会などの専門職団体が確立する以前の歴史を扱うため、同時代の地域新聞などの一次資料を収めたデータベースを用いて、公共図書館の成立に係る新たな変遷過程の経緯を検討した。ついで多様な公共図書館が基礎自治体の運営する公立図書館に収斂していく過程を、20世紀前半期の専門職団体の機関誌の網羅的分析と図書館史研究書の議論を統合・整理し、本研究における参照モデルとしてのアメリカ公共図書館モデルを総合的に分析した。さらに本課題「社会的公正を基軸とした公共図書館論の再構築」について、現在、新たに図書館研究では、ホワイトネスへの関心が高まっており、その開拓者的にして最も重視されるトッド・ホンマの論文を翻訳した。これはまさに図書館・図書館界における「公正」の問題を歴史的かつ現在への問題提起も兼ねて考察した論文である。

(2) フェイズ2 アメリカ公共図書館モデルの変容: 20世紀後半から21世紀にかけて起る公共図書館原則の揺らぎの時代を対象に新自由主義/市場原理主義に基づく経営モデルに公立図書館が取り込まれ、無料、公開、公費支弁の三原則が後退していく経緯を検討した。オルタナティブ・パブリック・ライブラリーという新たな公共図書館モデルを導入し、アメリカ公共図書館モデル/伝統モデルに対置させることで、21世紀の新たな公共図書館モデルの可能性について検討した。

(3) フェイズ3 北欧型公共図書館モデルの制度的枠組み: 全世界的に新自由主義に基づく図書館経営モデルが優位となるなかで、公共図書館の原則を維持してきた北欧の公共図書館の文化制度と政策実施を、政策文書から跡づける作業を行った。文化保障制度としての図書館の存在意義を、社会保障、福祉、教育に関わる公的制度に位置づけた上でその政策理念を検討した。

(4) フェイズ4 フィンランド図書館の実態調査: 公費支弁の公共図書館の運営原則を維持してきた北欧の公共図書館の中でも、文化政策過程への公的介入強度が高いフィンランドに焦点を当てて、公共図書館の現地調査を通して公的文化制度の浸透を実証的に解明した。2018年8月中旬にヘルシンキおよび近郊地域において13館の図書館を訪問し、7名の図書館職員にインタビューを行った。

(5) フェイズ5 公共図書館モデルの再構築:

5つの研究課題(アメリカ公共図書館モデルの確立史、アメリカ公共図書館モデルの変容、北欧型公共図書館モデルの制度的枠組み、フィンランド図書館の実態調査)を統合し、公共図書館が新自由主義/市場原理主義への対抗機関となる社会的に公正な文化施

設としてコミュニティに存立するための成立条件を、20 世紀アメリカ公立図書館モデルに再照準化して明らかにすることで、最終目的である公共図書館モデルの再構築を行いつつ、公正な文化装置としての公共図書館の成立条件を解明した。これらの研究成果を国際学会 CoLIS10(The Tenth International Conference on Conceptions of Library and Information Science, Ljubljana, Slovenia, in June 2019)で発表し、海外の研究者と新たな 21 世紀の公共図書館モデルに関して議論を行った。

< 参考文献 >

ポール・T.イェーガー、ナタリー・グリーン・テイラー、アースラ・ゴーハム著、川崎良孝・高鍬裕樹訳『図書館・人権・社会的公正：アクセスを可能にし、包摂を促進する』 *Libraries, Human Rights, and Social Justice: Enabling Access and Promoting Inclusion*, 京都図書館情報学研究会発行, 日本図書館協会発売, 2017年10月, 207p.

川崎良孝・吉田右子『新たな図書館・図書館史研究：批判的図書館史研究を中心に』 京都図書館情報学研究会発行, 日本図書館協会発売, 2011, 402p.

川崎良孝編著『図書館トリニティの時代から揺らぎ・展開の時代へ』 京都図書館情報学研究会発行, 日本図書館協会発売, 2015年, 497p.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 吉田右子・川崎良孝	4. 巻 70(4)
2. 論文標題 アメリカ公立図書館を基点とする公共図書館モデルの再検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 図書館界	6. 最初と最後の頁 526-538
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.20628/toshokankai.70.4_526	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 吉田右子	4. 巻 71(3)
2. 論文標題 占領期公民館構想における図書館の位置づけに関する批判的再解釈	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 図書館界	6. 最初と最後の頁 189-203
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.20628/toshokankai.71.3_189	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 川崎良孝	4. 巻 70(5)
2. 論文標題 ボストン公立図書館の利用規則と年齢制限が示す意味：1853-1875年	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 図書館界	6. 最初と最後の頁 586-601
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.20628/toshokankai.70.5_586	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 川崎良孝	4. 巻 71(3)
2. 論文標題 『図書館の権利宣言』（1948年）とヘレン・E.ヘレンズ：明示的な積極面と黙示的な消極面	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 図書館界	6. 最初と最後の頁 174-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.20628/toshokankai.71.3_174	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 川崎良孝	4. 巻 29
2. 論文標題 1876年以前のアメリカ公立図書館の全般的状況と図書館利用規則	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 同志社図書館情報学	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://doi.org/10.14988/pa.2019.0000000474	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計3件(うち招待講演 2件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 川崎良孝
2. 発表標題 <基調講演> 図書館の歴史研究の現状と展望: アメリカ公立図書館史研究を例に
3. 学会等名 第66回日本図書館情報学会研究大会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuko Yoshida
2. 発表標題 A reexamination of the public library based on the American public library model: Rethinking from the perspective of alternative public libraries, Conceptions of Library and Information Science
3. 学会等名 CoLIS 10(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川崎良孝
2. 発表標題 <特別講演> 図書館史研究と図書館人物史研究
3. 学会等名 日本図書館文化史研究会 2018年度研究集会(招待講演)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 吉田右子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 新評論	5. 総ページ数 252
3. 書名 オランダ公共図書館の挑戦：サービスを有料にするのはなぜか？	

1. 著者名 ポール・T. イエーガー，ナタリー・グリーン・テイラー，アースラ・ゴーハム著；川崎良孝，高鍛裕樹訳	4. 発行年 2017年
2. 出版社 京都図書館情報学研究会，日本図書館協会（発売）	5. 総ページ数 207
3. 書名 図書館・人権・社会的公正：アクセスを可能にし、包摂を促進する	

1. 著者名 相関図書館学方法論研究会（川崎良孝・吉田右子）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 松籙社	5. 総ページ数 267
3. 書名 トボスとしての図書館・読書空間を考える（<シリーズ> 図書館・文化・社会 1）	

1. 著者名 相関図書館学方法論研究会（川崎良孝・三浦太郎）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 松籙社	5. 総ページ数 270
3. 書名 時代の中の図書館・読書文化（<シリーズ> 図書館・文化・社会 3）	

1. 著者名 相関図書館学方法論研究会（川崎良孝・吉田右子）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 松籟社	5. 総ページ数 268
3. 書名 図書館と読書をめぐる理念と現実(<シリーズ> 図書館・文化・社会 2)	

1. 著者名 キャサリン・シェルドリック・ロス, リン (E.F.) マッケクニー, ポーレット・M. ロスバウアー著; 川崎良孝・山崎沙織・川崎佳代子訳	4. 発行年 2019年
2. 出版社 京都図書館情報学研究会発行, 日本図書館協会発売	5. 総ページ数 384
3. 書名 続・読書と読者：読書、図書館、コミュニティについての研究成果	

1. 著者名 吉田右子・小泉公乃・坂田ヘントネン亜希	4. 発行年 2019年
2. 出版社 新評論	5. 総ページ数 258
3. 書名 フィンランド公共図書館：躍進の秘密	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	川崎 良孝 (Kawasaki Yoshitaka) (80149517)	京都大学・教育学研究科・名誉教授 (14301)	